

第67号

発行所

京都市中京区河原町三条
カトリック京都司教区
広報室(Tel 211-3768)
編集責任者 村上透磨
編集部 教理センター
田中司教認可

京都教区時報

特集一京都教区ヴィジョン作り 中間報告
小教区の貢一上野教会

復刊三周年 時報を読んで…

京都教区全体の姿が示されるものとなつて
いることは、喜ばしいと思います。今後は教
会の使命・私たち一人一人の使命が明確にさ
れていく記事の充実を願っています。

「教区時報」毎号先づは一礼して読ませ
ていただきます。広報誌の仕事を少々経験し
た私にとって、企画、編集、割付け、校正等
等、と数々の行程を経て出来上がる様子がおも
い浮び、それにともなう作業の困難さ。一度
読んで、もうボイ／なんて、とても考えられ
ないです。一度目を通して、もう一度じっくり
読み、毎号綴じて、保存し、思わず、ご苦
労様でした。有難うございましたの気持が、
最初の一礼となるのです。

白峰圭子(四日市教会)

確かに京都教区の中に、新しい胎動を感じら
れます。パチカン公会議文書勉強会や信徒使
徒職養成コースなど、教区のヴィジョンづくり
も克明になつて来るようでも頗もしく
思われます。

松田裕昌(大津教会)

一番先に「司教の足どり」を読みます。司
教様の足どりを追えば、教区全体の動きが、
わかるように思うからです。北部の遠いところ
までおいでをいただいて、それが記されて
いるのを見ると「時報」を身近に感じます。
いかにも多忙な司教様が感じられて、「頑張ら
なければ……」と思思います。

岡本勝一(宮津教会)

教区時報を読んでいつも思うことがあります。
それはああ苦労しているなということである。
私は伏見教会で「小さき花」という機
関紙を永い間編集していた所為もあって、そ
の裏の実情というものが痛い程わかるのであ
る。原稿の依頼、訂正、編集。そのどれをと
つても大変なもので、その苦労は「開心」に
よくあらわれている。私の楽しみはそれを読
むことである。

朝来壯一(伏見教会)

京都教区の活動の様子が多方面にわたって
読みとれ、教区の中でも遠く離れた教会や施
設の方々との連帯感を深めてくれます。

県内の方々とは互いに一致協力して神の国
の建設に励んでいて、忙しい日々の生活に
追われて自己の視野の狭さや不勉強、或は独
善性におちいる危険性もあります。その意味
で紙面を通じて司教様のお考えを始め、大き
な教会の歩みとその方向性及び必要性を知る
ことは私にとって大きな光であります。

シスター中津幹(セントヨゼフ学園 校長)

私は教区時報を読むのが楽しみです。その
理由は二つあります。ひとつは福音を宣教し
ている沢山の人の足跡を呼吸として感じられ
るからです。他のひとつは小教区の貢、特に
「教会だより」を読む時、各教会の事情が手に
とるように理解でき私もその教会に行つて祈
り、歌いそこの兄弟と話したくなります。
教区ヴィジョン作りへの動きを期待します。

- ▽五月十二日(土) 田中司教 ローマ公式訪問のため出発
- ▽五月十九日(日) 邦人教区司祭例会
- ▽五月二十五日(日) 聖靈降臨の主日
- ▽六月六日(金) 田中司教帰國
- ▽六月七日(土) ヌペール会創立三百周年祭
於・聖母女子短大
- ▽六月八日(日) 河原町教会堅信式
- ▽六月十日(火) 司祭評議会常任委員会
- ▽六月十四日(土) 女子メリノール会学校
法人理事会(四日市)
- ▽六月十五日(日) 松阪教会堅信式
- ▽六月十六日(日) 邦人教区司祭例会
- ▽六月十七日(火)~二十日(金) 司教協議会
総会(東京)
- ▽六月二十二日(日) 鈴鹿教会堅信式
- ▽六月二十九日(日) 大和郡山教会創立二十
五周年記念 堅信式
- ▽七月五日(土)~六日(日) 日本カトリック
看護協会懇親会(京都)
- ▽七月七日(日) 教区司祭評議会



信徒使徒職養成コース 第一回基礎コース

五月一日(④夕より五月五日(④夕まで、唐崎メリノールハウスとノートルダム修道会祈りの家において、信徒使徒職養成コース、第一回基礎コースが開かれました。七年ぶりの三連休をつぶして申込んだ申込者は28名、その熱意を汲んで20名の定員を無理に24名までひろげて、スタッフ、講師合わせて32名、好天に恵まれたびわ湖畔に集合しました。参加者は常づね小教区で積極的に活動している方ばかり、その熱意と積極性のおかげで、一見ハードなスケジュールも、真剣な中にも和気あいあいの雰囲気でこなされて行きました。(参加者中女性3名)

キッペス師(講師、レデンブトール会上智大)の人間関係の学習では「聴く」という事を中心に、人間関係の再発見をさせられ、特に平素、聴いているようであつて、自分の強みを強く体験させられました。リーダーシップの基礎は他者に真剣に耳を傾け、心を開くということつまり真剣に人を受け容れることから始まるという事は簡単な様で、仲々そう簡単ではありません。

ネメシエギ師(講師、イエズス会、上智大)は、第二バチカン公會議の教える信徒の姿を簡潔にしかもわかりやすく教えてくれました。松本三朗師(講師、京都教区)はその話をさらに具体的な活動のレベルで、信徒の王職、預言職、祭司職がはたされるかを示し、カリスマ(一

人ひとりに与えられた賜物)を強調しましたが、それはさすがにグループで行なわれた聖書研究で深められました。第三日のミサは田中健一司教によつてささげられ、皆大いなる励ましを受けました。

マケンナ師(講師、メリノール会、衣笠教会)の講話は、教会の変化の姿を非常にわかりやすく説明し、これから教会の方向を示してくれました。全体に単なる講話ではなく、それを同時に体験的に学習し、同時に具体的な、話し方、朗読のし方、などにも訓練されて行くので、中味の濃い四日間でした。しかし同時にスケジュールが終わつた後、杯をくみかわしつつ語り合う交わりの時も、実際に豊かな意義深い時間でした。最終日はグループに分かれ、聖体奉仕者としての実習と、教会での活動の二つのグループで行なされました。最後のミサとともに皆、喜びと熱意にみたされ、各小教区でやれることを沢山発見して、散つて行きました。今回のものは基礎コース第一回で、今後三~五年にわたつて各種のコースが行なわれる最初のものです。次回は9月13日~15日に行なわれる「みことばと典礼コースⅠ」です。このコースには誰でも参加できますが、今回の基礎コースに参加した人が優先とされます。第二回の基礎コースは来年春の予定です。(各コースの詳しい事は、京都市左京区仁王門通り新高倉東入ル、京都カトリック教理センターにお問い合わせください。)皆のレベルで、信徒の王職、預言職、祭司職がはたされるかを示し、カリスマ(一

人間らしい生活も保ち得ないインド、ホナワの小さな島々に住む貧しい兄弟たちは、社会から疎外され苦しい生活を強いられながらも自活の道を得ようと懸命に働いています。一家の重要な労働でも結構です)教区の皆さんから援助していただければ、ホナワ地域の子どもたちの学校教育を実現させることができます。

郵便振替 京都 34889
電話 (日中) 075-781-1173
(夜) 075-727-8964

三つ目: 共助組合の誕生

伏見教会信徒役員会では、数年前から共助組合運動に关心を持ち、設立のための相談を続けて来たが、去る三月二十九日に、日本共助組合連合会事務局長の、遠藤氏を迎えて説明会を、また四月十九日には役員研修会を開催し、この七月十二日に設立総会を迎える運びとなつた。新組合は伏見教会信徒会を中心に、

トナムハウス
京都小旅行

主を賛えよう

司祭叙階銀祝

司教總代理村上真

理雄師は今年3月21

日銀祝を迎えた。

去る3月17日、邦人

司祭例会で祝いをす

るため、各会の司祭

に呼びかけたところ、

田中・古屋両司教を

はじめ、多数の司祭が集まり、共同司式

によるミサと祝賀会が行われた。尚六月

には、4日ラカラ師(エスコラビオス)

9日ラトレイン師(ヴィアトール)、11日、

ザートン師(メリノール)が夫々銀祝を迎

えられる事になり、共に祝い合つた。

諸師の上に神の恵みが尚豊かな事。

4月16日南婦連総会



心配されたストも無事解決。好天に恵まれ、百余名と云う今迄にない出席率。

会は河原町教会に於いて、田中司教臨席のもと共同司式ミサで開始。続いて顧問司祭村上真理雄師の銀祝賀会に入る。

25年を返り見ての話に一日一日の信仰の積み重ねを思わずにはいられない。

師の今後の活躍を祈りつつ午後総会に入

った。司教挨拶、事業会計報告。新役員紹介後、St米屋(牧理センター)から、

ベトナム難民救済現状報告。Srジーン(ノ

ートルダム)よりスライドを見ながらインド視察と里親制度についての説明があつた。同じアジア民族の一員として、教

済の手を差しのべようと活躍中のシスター

一達の働きにさきやかな手伝いをする事も今後の南婦連の歩みの一指針となるのではないかと考えている。

四旬節愛の募金(西院教会)

四旬節に当つての司教書の中では「四

旬節の愛の運動の募金を東南アジアの難

民救援のため行う」ことが呼びかけられ、

西院教会ではその主旨にそなため、街頭

募金に立つことを決定し、3月23日・30

日の両日、12時から17時まで河原町四条

と西大路四条の二箇所に分かれて街頭募

金を行つた。

故国を追われた「私の兄弟であるこれら

の最も小さな人々の

ための一人にしてく

れることは、つまり

私にしてくれたこと

である」とのキリスト

のみことばに促さ

れて、少しでも助け

となることを行おうとするものである。

秀友、三朗両松本師をはじめ修院のシ

スター一方、日曜学校の小学生から中高生、

青年会、マリア会、壮年会まで文字どおり教会ぐるみの活動となつた。23・30両

日で実に六三万三四八二円の募金額とな

り、上智大学「インドシナ難民に愛を」

の係に送り届けられた。

西院教会では、四旬節中に善業の一つの機

会を与えて下さったことを神様に感謝し、

自分達の小さな祈りと労苦と共に善意の

寄金を奉獻し、神様がこれらを用いて難

民に必要な助けと慰めを与える様願

つてゐる。

(さいいんNo.10より)

この愛の上に

マリア養護学校々舎完成

4月7日(復活の月曜日)北野白梅町

のウイチタ聖ヨゼフ修道女会の設置になる

学校法人聖マリア学園、聖マリア養護学

校々舎完成竣工祝別式が行われた。

昭和39年12月聖ヨゼフ整肢園開園、肢体

不自由児の療育を始めたが、入園する学

令児の教育保障のため、翌年ノートルダ

ム学園附属特殊学級が設置され、昭和54

年度の國の養護学校義務制に先がけて51

年度学校法人を設立、聖マリア養護学校

として整備開校された。

これまで、教育施設としては聖ヨゼフ整

肢園の一棟が使用されてきたが、国際兒

童年にもあたる昨年校舎建築計画実現と

なった。

一億九千万円に及ぶこの事業の費用も、

攝理的な形で作られ、「求めよ、されば与えられん」とのキリストの御言葉がそのまま実現され、関係者一同感激を深めていた。

自転車振興会から補助金は請求額

百分の交付が(一億五千六百二十九万円)

ドイツ・ケルン教区より五千四百万円、

京都府二千五百万円。募金五千万円は、

法人、個人、団体よりの協賛。又昨年11

月のこの目的のためのバザーには教区内

各方面の協力を得、大成功。之等は皆、

教会内外の連帯の賜物と感謝している。

式典当日は田中・古屋両司教を始め、

多くの司祭修道者の方の参列を得、又、林

初参加の山科、日本基督教団世光の活躍

が殊に印象的であった。大会開催の当番

の労をとられた宇治教会に厚く御礼を申

し上げる。

(桃山 上野徹)

ランティア、学童保護者、又一般の方々を招待して建物の公開を行い多くの方々の喜びと祝福を受けた。尚児童の美しい詩の朗読による挨拶があつた。

(本紙ダマスク途上参考)

南山城地区合同運動会

(エキユメニカルな運動会)

月29日、聖母女学院

のグランドに山科、

九条、田辺、八幡、

伏見、宇治、世光、



桃山の各チームが勢揃いして盛大な運動

会が行われ、幼児から初老の司祭までみんな元気に走り、跳ね、歌う楽しい一日を過ごした。

七種目の教会対抗競技のうちの六つ日を終えた時点での各チームの得点差は僅少で、どのチームも優勝の可能性を秘めて最後の綱引きトーナメントに望んだが、

結局この綱引きで一位となった桃山が総合優勝で司教杯を獲得し、山上透磨師が

宙に舞つた。二位は初出場の山科、三位は九条であった。閉会式では「来年がんばりま賞」などの賞が各チームに贈られ、来年の再会と健闘を誓い合つた。

今年の大会では、子供達の数の多さと

多くの司祭修道者の方の参列を得、又、林

初参加の山科、日本基督教団世光の活躍

が殊に印象的であった。大会開催の当番

の労をとられた宇治教会に厚く御礼を申

し上げる。

特集

京都教区ヴィジョン作日

中間報告

京都教区でも教区独自のヴィジョン作りの動きが始まっている。

この度、ヴァン・ジョン準備会からその中間報告が、各教会に配布されたが、ヴァン・ジョンは一部の人々の問題でなく全教区民の問題なので、教区民すべてに関心を持つていただきため、こゝに中間報告を加える事にした。

熱意のこもった祈りと聖なる助言と深い関心を持つて、全信徒が、この作成への努力を支えられん事を期待する。

お願い 田中健一京都教区司教

が、現代世界、特にアジア、日本の中での、京都教区民として、旅する神の民私達は一体自分達が何者であり、どうあらねばならないかと云う事、即ち自分自身の、アイデンティティを明確にする事は大切であると思います。その前提のもとに、進むべき道を探し、選んで行こうとの云う動きは大変嬉しい事であります。

第二バチカン公会議後15年、そのすばらしい精神と申しましようか、普遍教会地方教会（日本）の理想を正しく理解し私達の現場である部分教会（京都教区）のあるべき姿（ビジョン）を、司教も司祭も、修道者も信徒も一緒に祈りをもつて考え、取り組むべき優先事項を選んでみようとして試みる事は、大きな前進だと思います。そして私はそれを切に望んでいます。

一
經
過

者は当然私であります、私と協力者による作成準備経過並びに方向と云つたものを以下紹介申し上げたいと思います。

都教区のビジョンを作ろうとの提案がなされた。それを受け邦人司祭集会で伺

める事のスタートだと思います。特に、上述の優先事項との取り組みも大切です。

皆でやつてみようとなう事になつた。従つてこの作業を進めていく上で、出来アだけ多くの方の理解と協力を得るため、その経過を述べてみたい。

確か昭和54年4月の邦人司祭集会で、このヴィジョン作りの提案がなされた。それは教会自身の刷新と現代社会の福音化の切迫感と困難さを見るにつけ、もと皆が力を合わせねばならないのではなかいか、と云うところから起つて動き始めたのである。

たが、教団の中で出来るだけ多くの方の
考え方を聞くと云う事であるのに、活動団
体に属していない人の参加がよく考慮さ
れていないから、この案は不十分だと指
摘された。

小教区グループを諸活動団体に入れないので独立させ、教区内の小教区を、三重、奈良、滋賀、京都北部、南部の五地区に分ける。そしてその各々の地区で、いくつかのヴィジョンを作る。

そしてそれを前の三グループのそれと合わせて、共に京都教区のあるべき姿をつくり出すと云う事にした。その時、他の二つの重要な提案がなされた。

その一つはどの様にヴィジョンを作るかと云う事であり、漠然と教会の理想像を作り出すよりは、むしろ次の方針を取つてみてはどうだろう。即ち、ヴァチカン公会議後15年間、公会議の呼びかけにそつて教区で何を大切にしながら働いてきたのかをはつきりさせる。次に大切にしなければならなかつた事で大切にされなかつた事をはつきりさせる、と云う提案である。

こうして利道の現むるを一きり踏まえようとした。各グループが之をはつきりさせていくならば、教区が取り組まねばならない事が見えてくるのではないか、

京都教区時報

と考えられるからである。提案の一つめはこのヴィジョン作りの作業は、教区の責任者は教区長でなければならないと云う事だった。

この三つの提案は、三度目の邦人司
祭集会で了承された。（後日、上記8ヶ
ループに加えて、青年グループを独自に
作りたいと云う意見があり、賛意を表明
した。）

この後、これは邦人司祭団の提案として、教区の公式協議機関である司祭評議会に提出され、討議されて教区として取り組む事が議決された。

けれどもすぐにクリープ単位で作業を開始するのには無理なので、有志でた、会台を作つてほしいと要請され、教区長と三人の司祭の小グループでその作業を始

め、10月頃より毎週金曜日集まっている所で取りかかった事は、まずバチカソロ後15年間の教区の動きをはつきりとらえる事があつた。それは多くの司祭達の

協力を得て、かなり大まかにではあるが、一応二ヶ月後に出来た。(後述)
次に、大切な事でやり落していた事を探つた。(後述)

同時にもう一つ始めた事は、公文書を読む事だ。その実施法について種々の意見があったが、今回は邦人司祭全員が公文書を一つずつ担当し、学習し、それを信徒と分かち合う事とした。この様な学習会は一度だけ終るのでなく、新たな構築のもとに繰り返さるべきであろう。現在

— 15年間の刷新の試み
公会議以後刷新の歩み —

この教区の大きな方向性の輪郭は
5月下旬に完成する見込みである。
この後各グループでのヴィジョン作
の作業を始めてほしい。

のたとき台を作った時点で終了する。何故なら、私達準備委員会の作業はジョン作りの過程の一つを参考としてするのが主目的だからである。

作業（公会議以後15年間、教区でして來なかつた事を探る作業）を綜合し、之をより綿密に分析し、その上で「たたき台」として4人で教区のめぐらしへの訪問を行なつた。

京都南部地区で、青年のためのものが行中であるが、他の地区においても、担当の宣教師の協力のもとに開かれる期待する。

く門を開こうとした教会に於いて、出歩した事は、無意味ではなかつたであろう。然し、我々は現在と云う時の上に立つて見た時、それが表面だけの改革であつた事に気づき始めたし、又、真に第二ヴァチカン公会議が望んでいたものではない改革が中についた事も知らされる様になつた。その様な前提のもとに、京都教理が今迄、15年間続けた努力の軌跡を追って見たい。

大きく分けると、大体四つの種類のみがなされた。(1)第二ヴァチカン公会議とその文書、聖書、神学等の研究会のような學術的な試み、(2)種々の研修会、練成会、信徒大会、講演会、講座等の様な新しい聖書的、神学的な背景を持つて、教会や信徒の実際の生き方を探る試み、(3)公会議の中で勧められた新しい教会を示す活動や、自ら教会を世に対して証しする運動の試み、(4)教会の内部での新しい組織作りや、従来からある組織の刷新の試みである。

第一のものは、教会自身の、又、信徒自身の信仰を基礎から深め、固めるために示されたものであり、今迄の信仰の内容の見直しも含まれていた。特に、共同体、教会、聖書、福音の宣教、キリスト信者の証しについての、聖書的、神学的な照らしが与えられた。

第二のものは、第一のものを背景として、教会の新しい光の中で、信徒の信仰を深め養成し、又それを若い世代に伝えて行くために行なわれた。その中で

は、一教会とは何か」「信徒はどうあるべきか」「自分自身を神にかける信仰のあり方」等が問われたが、反省として、問題の大きすぎた点、リーダー養成不足、それらの実行の不足、或いは具体的取り組みの不足等があげられる。この中には司祭、修道者への召命促進を特に目指すものもある。

第三のものは、カリスマによつて始められたもの、現代社会の要請に教会が応え始めたもの、将来の社会への教会の先取りとして世の中のリーダーシップを取りつて働いているもの、他の宗派と共に進めているもの等の活動である。平和、信仰一致、現代社会の中に入り込んで、人々とキリストの福音の核心を分から合う事、教会として、キリスト信者として福音宣教の使命を果す事、信仰の刷新をしていく事等が、このグループに属する諸活動の目的である。一言で言えば、社会の中につってキリストを信じる証しをたてる為と云えるであろう。勿論、信仰の証しをするのは、キリスト者皆の使命であるが、それを社会的な活動の中でしていこうと云うのが之等諸活動の特徴と云える。そして、特に大切にして来た事は、自分の信仰の刷新であり、自分の信心であり、社会と自分との福音的関りで働く事である。そして自分の側からだけ見て、自分の側の要求だけを押し通そうとする、現代の利益、能率第一主義の中

で、いかなる利益、能率にも変える事のできない、人格としての一人の人間を大切にする事である。然し、之等の試みにも沢山の反省すべき点がある。最も大きな点は、之等の社会との関わり、人々との関わり、諸宗教との関わり、政治との関わりの必要性の意識が教会の中では充分であった事である。そしてこれは、現在でも言える事である。又、このグループの諸活動は、全般的に、屡々開かれ、今も続いているものばかりであるが、之等の活動のあるものは、全ての人におしなべてあてはまるものではないと云う事である。

第四のものは、従来の小教区信徒会、地区レベルの連合会の上に、更に公会議以後重要視される、司教評議会の基礎となるべき教区の信徒委員会の連合の協議会、司祭評議会、修道者連盟が主なもので、その他に、或る地区で、独自な若者の交流と奉仕のグループもある。之等の諸会合、連合会等は、常にその存在の有意義さを問われながらも、全ての信徒に開かれたものとして、開かれた教会の基本的な姿勢を示すものとして育てられてきたが、今尚、完全なものとはなっていない。之等が、京都教区での公会議後の刷新と今日化への歩みの主なものである。

(文責 斎木嘉作)

一 反省 足りなかつた事――

田中司教の年頭の辞をふまえて、80年1月4日、司祭、修道士の間で、「こ、15年、やらねばならなかつたのにやれな

い」といった信者になり易い。

「かつた事」について、集中的に討議されたり、時間が短く、準備も不十分だったが熱心な話し合いがなされた。その時の意見をまとめて見よう。

教区の中で、やれなかつた事と、多くの司祭達が考へている事は次の三つである。

一、教会が開かれていなかつた。

二、自己、教会の福音化、そして社会の福音化への努力が足りなかつた事。

三、信徒リーダーの養成の努力が足りなかつた事。

(一)の開かれていない教会に関して云えば

(1)日本の方は、まだまだ西洋的であり、もっと日本の伝統に立つべきだ。

(2)典礼の土着化がなされていない。

(3)教会の民主化が遅れている。

(4)パウロ六世の福音宣教の具体的取り組み不足。

(5)自分の家の飾りつけはしたが、家の扉を開かなかつた。

(6)諸分野の福音化の努力の不足に関して

(7)司祭の説教自体の改革。

(8)祈りをこめた教会人としての社会への働きかけが不足していた。

(9)個人としての試みではなく、共同体としての試みが欠けていた。

(10)公会議の精神が十分理解されていない。

(11)信徒リーダー養成の努力不足に関して

(12)司祭自身の勉強不足。

(13)信徒会の共同体意識の不足。

(14)教会の中元氣、外に出たら元気がないといった信者になり易い。

(3)司祭中心の教会の脱皮が進んでいない。

これは司祭の方にも責任が大きい。然し信徒も又、やや受身的で、

与えられる事、してもらえる事を待

ち望んでいたきらいがなかつたか。

このあと、どうして以上の三つの事が出来なかつたか。その原因を全体会で探つた。そして次の四つの意見が出された。

1.公会議による変化が「上から」のものであつた。少くとも日本ではこの変化は信徒の中から起こしたものではない。

2.公会議の理解不足。

3.福音書から、教会が外に開かれていかねばならないと云う理解を生み出すのは困難である。

4.自分の周りの現実との触れ合いと交わりの不足。教会内刷新だけでは、本当に福音化の必然性が強く感じられないのではないか。

以上が、司祭修道者懇親会で出された意見である。

(文責 村上真理雄)

――これらの取り組み――

京都教区の中に8つのグループ群を作

る。そして各グループ群に属する一つ一

つのグループが、京都教区の具体的な

ジョン作りを始める。その方法はいろいろあると思われるが、今年は最初の試みとしてた、き台の進行過程を参考にして

もらう。即ちヴァチカン公会議後15年間

の各グループの反省を踏まえ、現状にお

いて、自分達がどうあらねばならないか

を討議する。各グループでの討議を終え

たら、その属するグループ群間で、自分達が共通に大切にしたいものをいくつか探し出す。(勿論、今までの反省をふまえて)

次に、こうして各グループ群は、自分達の15年間の反省と、現状においていかに通じて、何がより大切か、の共通の希望(意見・方向性)を作る。ここまで来るために約6ヶ月の時を予定する。

次に各グループ群の代表の合宿を計画する。

教区長を中心に、各グループ群の代表が、そこで作られたヴィジョンを持ち寄り討議する。ここには、聖書学、神学、社会学等の専門家をも招く、彼らの意見をまず聞くのではなく、我々の討議を聞いてもらう。(我々がまず意見を述べる)。こ、でも、もう一度、15年間の反省と現状に対するあり方を探り出し、専門家の意見をも参考にして、京都教区の一・二年の短期ジョンを作り出す、

こ、には当然、第一ヴァチカン公会議で示され、その後も常に求め続けられる、教会の現代世界の中でのあり方、常に教会自身を刷新し、同時に社会の福音化をめざす方向性があるべきだろう。

言葉をかえて云うならば、我々がその中

にいる社会を福音化するために、我々の共通の課題として、何を最も大切にしなければならないかを探り出すのである。

勿論、現状の複雑さをかんがみて、この共通項は決して長期的なものにはなし得ないであろう、一短期的なものであるべきだろう。そして、この共通の課題を

みんなで優先的に大切にしていく中で、そのつながりを深め、社会の要請に答えていく力と勇気を持つ事が出来るのではないか? (文責 越知健)

一九八〇年三月二十一日
ヴィジョン作り準備会

長江司教講演要旨

公会議文書研究会の開始講話は、前浦和司教、長江惠司教によって行われた。もう少し詳しい報告は別になされており、ここにその要旨を記載する。

一、公会議開催の背景と動機

公会議開催の発表は、昭和34年1月、教皇ヨハネ23世によつてなされ、数年の準備期間を経て後、昭和37年開催され、40年まで、毎年秋期二ヶ月間開かれた。

公会議は二千年の教会史上わずか20回程度であるが、その後の教会の流れを左右する。では何故教皇がこの重大な決定をするに至つたか、それは主に二つある。

1. 少数派である教会(数からみても(約7億)全人口の1%乃至それ以下にしかすぎない実践信者と云う事であればもつと少ない)思想的に見ても、生活の中心に神を置く者は少なくなり、考えが世俗化し、科学技術の進歩等も相まって神なきヒューマニズムが起りこり、地上の乐园を自力で追求出来るだろうとの希望と確信をもち、自らを地上の生活の支配者と錯覚する人が多くなった。

2. 貧困の問題、先進国と未開発国、開発途上国に増大する貧富の差と飢餓の状態、こういった現状を見直し、カトリック教

会のあるべき姿、歩むべき道を模索しようとした事である。

二、次に司教は会議の構成と議事進行について述べられた。又何故公会議でなければならないのかと云つた興味ある問題を

はいけないのかと云つた興味ある問題を話されたが、ここでは割愛する。

現公会議の根本問題は教会論である。

少数派となつた教会は宣教の教会でなければならぬ。そこで教会はどうあるべきか自己反省をした。そして現代の諸問題と教会の本質をどう適合させるかを考えた。その特徴は教義を決める事より、

どうあるべきかの方向づけ、司牧的な指導方針を与える事、更に理論的に解明しようとする事より、具体的現実的な捉え方、救いの歴史において現代の教会を捉えると云う事であった(注「教憲」神の民)

三、教会論の主要点

1. 教会は神の国ではない。神の恵みの充満が神の国であり、御國が来ます様に祈り、神の国を告げ、伝えるものが教会である。教会を地上の神の國の顯現とするのは誤りである。こういう誤りが地上の社会をさして教会と云うのではない。
2. 教会は祕跡である。教会は神の恵みの充満が神の國であり、御國が来ます様に祈り、神の国を告げ、伝えるものが教会である。教会を地上の神の國の顯現とするのは誤りである。こういう誤りが地上の社会をまねた権威主義を生み出した。
3. 教会は生活の中に生きており、建物の中にあるのではない。

5. 教会は生活の中に生きており、建物の

中にあるのではない。

三、教会論の主要点

1. 教会は神の國ではない。神の恵みの充満が神の國であり、御國が来ます様に祈り、神の国を告げ、伝えるものが教会である。教会を地上の神の國の顯現とするのは誤りである。こういう誤りが地上の

社会をまねた権威主義を生み出した。

2. 教会は祕跡である。教会は神の恵みの充満が神の國であり、御國が来ます様に祈り、神の国を告げ、伝えるものが教会である。教会を地上の神の國の顯現とするのは誤りである。こういう誤りが地上の

社会をまねた権威主義を生み出した。

3. 教会は生活の中に生きており、建物の

中にあるのではない。

5. 教会は生活の中に生きており、建物の

中にあるのではない。

6. 地方教会。ローマも一つの地方教会。

7. 教會のイマージとヴィジョン

8. 司祭修道士懇親会報告として

9. 邦人司祭提案、61号(昭和54年6月)P5

10. 教区ヴィジョン作りへの動き

11. 司祭評議会検討事項

12. 62号(昭和54年8月号)P5

13. 教會のイマージとヴィジョン

14. 63号(昭和54年10月号)P5

15. 教区司祭修道士懇親会報告として

16. 64号(昭和54年12月)P5

17. 65号(昭和55年2月)P2

18. 又、司祭修道士懇親会報告として

19. 66号(昭和55年4月)P2

20. 第一回信徒使徒職養成コース報告

威をもつた神の民に仕える奉仕者がある。信徒が教会へ行く、教会を手伝うと云う、云い方はまちがっている。又信徒自身がついで述べられた。又何故公会議でなければならぬのかと云つた興味ある問題を世界の中の教会と云われる。

5. 信者の祭司職。毎日の仕事、ミサへの積極的参加、祈りを捧げる事が信者の務めである。

6. 地方教会。ローマも一つの地方教会。

7. 教會のイマージとヴィジョン

8. 司祭修道士懇親会報告として

9. 62号(昭和54年8月号)P5

10. 邦人司祭提案、61号(昭和54年6月)P5

11. 教区ヴィジョン作りへの動き

12. 司祭評議会検討事項

13. 62号(昭和54年8月号)P5

14. 教會のイマージとヴィジョン

15. 63号(昭和54年10月号)P5

16. 教区司祭修道士懇親会報告として

17. 64号(昭和54年12月)P5

18. 又、司祭修道士懇親会報告として

19. 65号(昭和55年2月)P2

20. 又、司祭修道士懇親会報告として

21. 66号(昭和55年4月)P2

22. 第一回信徒使徒職養成コース報告

23. 67号(昭和55年4月)P2

24. 又、公文書勉強会についての報告

25. 68号(昭和55年4月)P2

26. 布教私の出来事

27. 69号(昭和55年2月)

28. 平伏して村上透磨

29. 変るものと変わるもの

30. 村上透磨

31. 60号(昭和54年8月)

32. 61号(昭和54年10月)

33. 62号(昭和54年2月)

34. 63号(昭和54年2月)

35. 64号(昭和54年2月)

36. 65号(昭和54年2月)

37. 66号(昭和54年2月)

38. 67号(昭和54年2月)

39. 68号(昭和54年2月)

40. 69号(昭和54年2月)

41. 70号(昭和54年2月)

42. 71号(昭和54年2月)

43. 72号(昭和54年2月)

44. 73号(昭和54年2月)

45. 74号(昭和54年2月)

46. 75号(昭和54年2月)

47. 76号(昭和54年2月)

48. 77号(昭和54年2月)

49. 78号(昭和54年2月)

50. 79号(昭和54年2月)

51. 80号(昭和54年2月)

52. 81号(昭和54年2月)

53. 82号(昭和54年2月)

54. 83号(昭和54年2月)

55. 84号(昭和54年2月)

56. 85号(昭和54年2月)

57. 86号(昭和54年2月)

58. 87号(昭和54年2月)

59. 88号(昭和54年2月)

60. 89号(昭和54年2月)

61. 90号(昭和54年2月)

62. 91号(昭和54年2月)

63. 92号(昭和54年2月)

64. 93号(昭和54年2月)

65. 94号(昭和54年2月)

66. 95号(昭和54年2月)

67. 96号(昭和54年2月)

68. 97号(昭和54年2月)

69. 98号(昭和54年2月)

本誌記載関係記事

司教の足どり

三月～五月



- 3月
- 16日(⑪)レジオマリエ・アチエス
 - 17日 村上真理雄師司祭銀祝ミサ
 - 18日 聖マリア養護学校卒業式
 - 19日 諸宗教関係特別会議(東京)
NCC代表と面談
 - 司教協機構検討委・大使館にて
夕食
 - 20日 浦和司教祝聖着座式
 - 21日 司教協特別総会・宣教司牧委
M.M管区長館訪問
 - 22日 教区学校法人理事会・ヴァチカ
ンII勉強会
 - 23日(⑪)聖母の家学園理事会・同卒業式
 - 24日 京都国際同志会(河原町三条)
 - 25日 教区学校法人理事会・ヴァチカ
ンII勉強会
 - 26日 社会福祉法人カトリック幼稚園教職
員研修会
 - (大和郡山)
 - 28日 京都教区カトリック幼稚園教職
員研修会
 - 30日(⑪)受難の主日
- 4月
- 1日 M.M管区長・副管区長と面談
 - 2日 S.J管区長と面談
 - 3日 聖木曜日、聖香油のミサ・大塚
木村両神学生司祭志願者認定式
 - 4日 聖金曜日
 - 5日 聖土曜日(復活徹夜祭)
 - 6日(⑪)復活祭
 - 7日 聖マリア養護学校祝別式
 - 8日 N.C.C研究所訪問

9日 日本宗教代表者会関係者と面談
(東京) 初台レデンドットール会11日(⑪)ダフィ師追悼ミサ(九条)
12日 司祭評定例会議・ローマへ出発10日 日本宗教代表者常任委員会(法
輪閣)11日 司教協機構検討委(東京)
訪問(ライアン師葬儀)14日 南山宗教研究所長と面談
社会福祉法人三重聖母の騎士会
理事会15日 南婦連総会。SSND米国管区
長と面談16日 教区内男女管区長会議(奈良善
きサマリヤ人修道会)18日 日本宗教代表者会関係者と面談
邦人司祭月例会21日 日本宗教代表者会事務局関係者
と会合(東京曹洞ビル)22日 日本宗教代表者会関係者と面談
タルト師葬儀ミサ(北白川)

24日 小山教会代表と面談

25日 タルト師葬儀ミサ(北白川)

26日 四日市信者有志と懇談

27日(⑪)スピリチュアル・コンサート
(河原町教会)・深堀司教来泊28日 三重カトリック信徒大会(四日
市海星)

29日 日本宗教代表者会関係者と連絡

30日 日本宗教代表者会関係者と連絡

河原町教会百周年記念

スピリチュアル・コンサート



去る2月3日に河原町教会百周年を記念した行事として、4月27日午後3時より、高山右近と細川ガラシヤを讃える、スピリチュアル・コンサートが催され、オラトリオ「みれす・くりすち」(キリストの兵士)、「主のみ手に」が上演された。これは、Y.B.Uの水口登美子氏、奈良在住の田中真知子氏作詞、柱本優氏作曲によるもの。遠藤政樹氏指揮、教会聖歌隊を中心、合唱60名、独唱4名、管弦楽14名、バイオルガルからなる大がかりな編成によるもので、独唱者は、羽織袴、振袖姿、背後にステンドグラスという视觉的にも一風変わった様子を醸し出しながら、二人の偉大な使徒達を讃え、彼らの思いを今の代に歌い伝えた。

京都葉大のユーヘルコールの応援も多大であったものの、音楽事務所などの手を借りずに、相当大がかりな演奏会を成功させたことは、教会の今後の活動に大きな自信となるであろう。

なお河原町教会では、今年を百周年記念年として、現在行われている屋根の大修理、百年誌の編集、その他いろいろな行事を催していく予定である。

あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀・貨物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下 安雄

京都市右京区西院寿町23
電話 (075)312-7829タイプ・活版 | 各種印刷
オフセット

今道印刷

〒602 京都市上京区天神筋一条下
ル下堅町152
電話(075)463-6024番

広告についてのご案内

時報に広告掲載を希望される方は、編集部までご連絡ください。

掲載は原則として、1ヶ年契約(年6回)とし、1回当たりの掲載料は1万円です。また半スペース5千円の広告も受け付けています。

京都以外の方もご利用ください。

〒604 京都市中京区河原町三条

カトリック会館5F

京都教区時報編集部

TEL 075(211)3768

「さまざまの事おもい出す桜かな」(芭蕉翁句)という様な句の美しさを鑑賞する人々は、「他人からしてほしいと思う事を、あなた達も他人に行なえ」という様なみ言葉の美しさをも同様に鑑賞すべきだと思われる。伊賀上野の人々のごく少数しかしキリストのみ言葉を受け入れる程の関心を持つてないから、自分達の土地から出た有名な芭蕉翁の句に対して同じ様に、本当の深い関心をもつていてないと判定出来るだろうか。その通りだと決定してしまう様な事は決して出来ないが、せめてその様な疑問、そして芭蕉翁自身が上野に止まらず、全国を歩き巡る事が多くの日を費したのも、おそらくその様



忍者の心

な理由によるという疑問も起つてよい訳ではないか。もう一つの事実によつてこの秘密を探索する糸口を見付ける事が出来るかも知れない。伊賀上野は芭蕉翁の生れ故郷であると共に、又忍者の發祥地でもある。伊賀人が自分の考え方等を容易に現わさないのはこの関係によるものだろうか。とに角僕も忍者に倣おうとする教訓がある。即ち、忍耐し、屈せずに我慢し、真理が知られ、上野の多くの人々が神のみ言葉の美しさを認め、その偉大な愛の喜びを受け入れる時まで堪え忍ぶ事だ。それまでに相当長く待たねばならないだろうが、忍者の秘訣は忍耐力ならば、僕のものと同じだ。

ウイツテ神父 上野教会主任

小教区の頁 上野教会



私達の上野教会には、典礼・布教・奉仕・教育の四つの部があり、信者はそのいずれかに属しております。各部は、その特色を活かした活動をしておりますが今日はその中から教育部の活動のひとこまを御紹介致しましょう。

クリスマスを前にして、部会が開催され、信者と教会学校の子供達の為に、劇を行なう相談をしました。一昨年は初めての試みとして、主の御誕誕のベーブサートを行なったのですが、考えてみればそれが今回の上野劇団の前身であつた様に思います。今はより充実させたいと願い劇に挑戦することになったのです。とはいっても挑戦することになったのです。とは云ふに、何分素人の集まり、演劇とはほど遠い者ばかりです。それで、日曜の二〇〇〇の後のせりふ読み、立ち稽古、そして家庭に戻つての悪戯苦闘のせりふ覚えを経て、少しずつ自信をつけていきました。

「くつやのマルチン」トルストイの名作で、クリスマスにふさわしいタイトルた。

です。せりふを忘れたり、即興のせりふが飛び出すやら冷汗ものでしたが、弱冠2才の坊やを含め、劇団員全員の熱演で無事幕が降りた時は、出演者ばかりではなく、客席までもがほつとした様に思いました。これにこりずに、御復活祭にも第二公演を行い、とりわけイエズス様の役になられたお父様は、御顔にふさわしく、おひげを何週間もかかつて伸ばしていましたのは、この上もない好演技でした。

この上野劇団を観賞なさりたい物好きの方があればどうぞお出かけ下さい。

再上演でもさせていただきましょう。……。(教育部)

私達は先祖から文化遺産として受け継いで来ている日本独特の社会的風習の中で教会が取り入れられる風習を教会行事の中に取り入れ生かす努力をしています。例えば、一年前の復活祭の時から、お祝いの卵は着色をやめています。其の色素の持つ毒性もさる事ながら自然性を尊重する事により、邪しまな欲望によつて与えられた恩恵を失う事のない様にしなければならぬ事を思い起して頂き復活の栄を受けられる様にとの意向からお祝いの事とて赤と白の卵をゆでて参会者に配りました。去年のクリスマスの飾り付けをするに当り、緑の環は何の為に飾るかと其の意味を問い合わせ、緑の環はイエズス様を象徴する物であるとの結論から、



クリスマスにはどこの教会でも馬小屋等を飾つてお祝いしますが、当教会ではクリスマス大ではなく、典礼に合わせた飾りを致します。例えば、四旬節中には黙想の材料として、イエズス様のご典礼に使われた物を作つて展示しました。即ち、十字架、赤いマント・茨の冠・釘・鞭・サイコロ等です。(典礼部)

ス様への愛と赤心を表わす物であるから、外側に出し、白は清浄とか謙そんを表わす物であるから、赤の内側から赤の縁取り程度に表に出して飾りました。私達は余り清くなく罪深い人間ですから白布を大きく表面に出せませんでした。赤の心も問われば白同様ですが、貧しい乍らになられたお父様は、御顔にふさわしく、愛の心を持っているのだからこれ位の飾りは良いだろうと、水引きの様にきれいだと自画自賛しています。

御ミサの時聖歌集や聖書と典礼等使用する印刷物が多く跪き台が狭くそれ等が散逸したり頁を繰るのに不便をかこつて居ましたか。おもに使用する典礼聖歌を独自に編集し其の聖歌集中に聖書と典礼を各人が御ミサの度に自由に組み込んで使用出来る聖歌集を作り使用しています。

(森下光一)

聖マリア養護学校竣工式
児童のあいさつから
まちにまつた新校舎
りっぱにりっぱにできあがりました。
ありがとうございます、ありがとうございます
よろこびがぼくたちの心に
うれしさが私の胸にあふれます。
がんばった今日まで、がんばります
ごらんください

緑が一段と濃くなり、子ども達も進級して二ヶ月にもなると、緊張がほぐれてくる頃である。一般に中学生は、からだはどんどんおとろに近づき、大きくなつて行くが、精神的には、まだ小學生から抜けきらず、自分の考えもはつきりと決まっていない

危険な年頃であるようと思ふ。成長することは嬉しいことだが、同時に不安も覚える。刺激の強いものに憧れ、流行のファッショントを追うあまり、お金が欲しくなり、つい他人のものに手を出したり、中学生売春などという大それた行動に出るという。

聖マリア養護学校の
豆電気のように
生命はとても短く
せつかく生まれても
たた三日の短い
ほたるなのに
葉がいをつづつしていく星も
遠くふるえながら
散ることを知らぬ花の
固い悲しみの核にはとどかない

寺尾京子 (こひつじの苑)
ほたるってどうしてあんなに
おしりがあかるいの
あれは呼吸をするたびに
豆電気のように
ついたり きえたりする
命はとても短く
せつかく生まれても

田中 芳 (伊勢教会)
その花
外からは見えず
樹液の悲しみを吸い
内に向かつてひき聚まつていく
日ざしの愛も
遠くふるえながら
安息の陰をかもす
私も含めて大部分の人達は、このよう

◎子供達が本当の幸せは何かと知つているのでしょうか。貧しくとも子供と共に笑い、泣き、苦しむ母親を必要としているのではないでしょうか。子供を思う時もう一度母親の家庭での重要さを考えたいと思います。

◎一人一人はとてもよい子なのに、集団になると問題をおこす、それを側でみていてもだれも注意をしない。責任のがれ無関心がそういう態度に出るのか。この事について学校での教育と家庭の壁を一つの輪として考へるべきだろう。(H・K)

◎子供の非行の罪はその家庭にある。私達は先ず自らの家庭、自己を顧みたい。そして「第一に大切なものは何か」を知り得た恩恵を周りの友に分ち与える小さな伝道を、勇気を持って繰返すことができる毎日であるように祈りたい。(A・T)



つらいこともくるしいこともりこえて
こうふくな世界をみんなでつくります。
うちゅうに浮ぶ地球号の上に。

ほたる

寺尾京子 (こひつじの苑)
ほたるって不思議だね
ほたるってどうしてあんなに
おしりがあかるいの
あれは呼吸をするたびに
豆電気のように
ついたり きえたりする
命はとても短く
せつかく生まれても

田中 芳 (伊勢教会)
その花
外からは見えず
樹液の悲しみを吸い
内に向かつてひき聚まつていく
日ざしの愛も
遠くふるえながら
安息の陰をかもす
私も含めて大部分の人達は、このよう

ほぎうたにひるがえつて
地に沈む美のいつわりを
ひややかに拒み
彫りつづける結実への祈り

エデンの園の背景から
肉をおびてきた暗さを

実際に残酷と思う

いちじく

田中 芳 (伊勢教会)

人間がつかまえて
せまいかご
おしこめて 喜んでいる
流転の間にすべり落ちていく
肉をおびてきた暗さを

ゆるがせている葉うらを
よみとろうともしない過酷などのを
果実は



ひとこと

ほたる

非行問題

非行——親と

有名なお寺の名僧が毎週

有

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

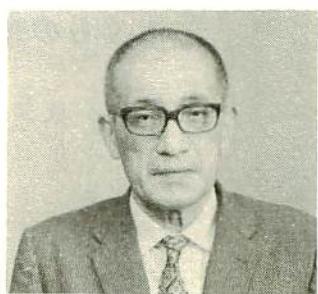
る

る

る

る

諸宗教の対話 修道院を訪ねて



花園大学教授
浄土宗学研究所主任
樹昌院主職 藤吉慈海

生活を共にし、精神的なレベルで交流をはかられたことは歴史的なことだと喜んでいたときました。

私のいましたメソセデの修道院は若い

修道院長の下に三〇名ばかりの神父さまと修道士がいられ、ギムナジウムに教えに行ったり、農作物をつくつたり、牛や豚を飼育したり、木工場で家具をつくつたり、いろいろの労働をしながら、一

日六回の祈りの時間を共にする、緊張した修道生活のようでした。私共三人と通訳の日本人は、主として祈りと対話につとめ、カトリックの教えや修行法、とくに祈りと労働の関係について論究いたしました。

私はカトリックについて、あまりよく知りませんが、戦時中、長崎の要地防空隊の副官として稻佐山や伊王島にいたことがあります。当時、田北耕也先生の御案内でも聖母の騎士社や大浦天主堂を訪ね山口司教様やミロハナ神父さまやゼノさん等にお目にかかり、強い印象を受けました。その後、一昨年は北美東西対話の会の招きで、北米ミネソタ州のセント・ジョーンズ大修道院に三週間滞在し、神父さまや修道士の方々と仏教とキリスト教につき対話を重ねて来ました。

昨年は九月に西ドイツのカトリック修道会の招きで、西ドイツのメッセセテにあるベネディクト派の修道院に三週間滞在し、仏教とカトリックの交流をはかり、バチカンでは教皇さまにもお目にかかり、諸宗教の交流の必要なことを痛感いたしました。教皇さまは、たくさん日本の日本仏教者がヨーロッパの修道院で三週間も

を工夫するのです。したがって作務をしている時に、石が飛んで竹に力チツとあたった音を聞いて大悟した話は有名です。私は今まで見聞きしたが、このあたりがカトリックの祈りと労働と、すこし異なるよう

に思いました。

女子修道院も二つ見学いたしました。

観想修道会で、院長さま方と一時間も対

話いたしましたが、ここでも祈りと労働

が共に重視され、敬虔に修道していらっしゃいました。七〇名位の方が共同生活をしていました。

いられるにおどろきました。日本の仏教の尼僧は次第に減少しているのに、ド

イツではそうではないことを知りました。

これも女子修道院が自給自足の生活をしていました。社会から逃避しているよう

で十分に祈りが深まるかどうか、坐禅

をとり入れている向もありましたが、長

時間静坐してみることも大切だと思いま

る。『色』の美しさに驚かされる季節になつた。

カトリックの修道院は祈りの外に労働

をして、完全な自給自足体制をとっています。そこが仏教の場合と異つています。仏教でも労働とくに肉体労働は作務

といつて修行の一になつています。坐

禪や念佛も修行の一ですが、掃除をし

たり畠を耕やすことも勤中の工夫といつて、体を動かしながら、与えられた公案

を工夫するのです。したがって作務をし

ていても、必ずうつ困る。へえすいまへん。でも

こういう事をようやりまんな。あなたの

心の書き変えを。ごめん下さい。(M.T.)

◆30年の歳月は、喉もとの熱さを跡かたもなく忘れさせるものか?。不穏なニュースが流れ始めたこの頃。キリストの平和

をうちたてる日本キリスト者の心のうち

は如何に?。長いものに巻かれる惰性を

破る手をと考えさせられる日々の報道(Y)

鏡になつた水田に青空が映える。鏡になつた水田を夕陽が一本の線となつて走る。『色』の美しさに驚かされる季節になつた。

(ア) した。典礼の美しさ優雅さは、たしかに

伝道の手段ともなりますが、現代人にと

つて、それだけでは十分ではないのでは

ないか。農園で働く老修道士の生き方の

もの労働が祈りと一つになつていていたから

でしょうか。

(題字も筆者)



時報が対話
おう書く
の手段なら
者も読む者
ば「互いに
も、投稿者
心を開けあ
も編集者も」

私はカトリックについて、あまりよく知りませんが、戦時中、長崎の要地防空隊の副官として稻佐山や伊王島にいたことがあります。当時、田北耕也先生の御案内でも聖母の騎士社や大浦天主堂を訪ね山口司教様やミロハナ神父さまやゼノさん等にお目にかかり、強い印象を受けました。その後、一昨年は北美東西対話の会の招きで、北米ミネソタ州のセント・ジョーンズ大修道院に三週間滞在し、神父さまや修道士の方々と仏教とキリスト教につき対話を重ねて来ました。

昨年は九月に西ドイツのカトリック修道会の招きで、西ドイツのメッセセテにあるベネディクト派の修道院に三週間滞在し、仏教とカトリックの交流をはかり、バチカンでは教皇さまにもお目にかかり、諸宗教の交流の必要なことを痛感いたしました。教皇さまは、たくさん日本の日本仏教者がヨーロッパの修道院で三週間も

いました。そこが仏教の場合と異つています。仏教でも労働とくに肉体労働は作務といつて修行の一になつています。坐

禪や念佛も修行の一ですが、掃除をし

たり畠を耕やすことも勤中の工夫といつて、体を動かしながら、与えられた公案

を工夫するのです。したがって作務をし

ていても、必ずうつ困る。へえすいまへん。でも

こういう事をようやりまんな。あなたの

心の書き変えを。ごめん下さい。(M.T.)

◆30年の歳月は、喉もとの熱さを跡かたもなく忘れさせるものか?。不穏なニュースが流れ始めたこの頃。キリストの平和

をうちたてる日本キリスト者の心のうち

は如何に?。長いものに巻かれる惰性を

破る手をと考えさせられる日々の報道(Y)

鏡になつた水田に青空が映える。鏡になつた水田を夕陽が一本の線となつて走る。『色』の美しさに驚かされる季節になつた。

(ア) した。典礼の美しさ優雅さは、たしかに

伝道の手段ともなりますが、現代人にと

つて、それだけでは十分ではないのでは

ないか。農園で働く老修道士の生き方の

もの労働が祈りと一つになつていていたから

でしょうか。

(題字も筆者)